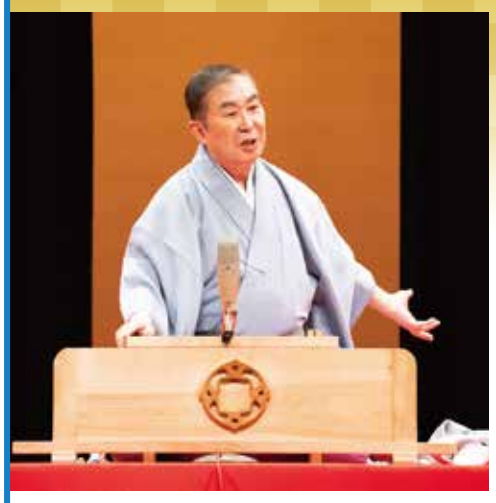
「参地直笑祭in北区」を開催しました

桂文枝の大阪市24区創作落語プロジェクト



1月21日、北区民センターにて「参地直笑祭in北区」を開催。桂文枝さんが「参」上し、北区の特色を盛り込んだオリジナル創作落語で「地」域の皆さんに「直（じか）」に「笑」いをお届けしました。

桂文枝さんが北区で過ごした幼少の頃の話や天満天神繁昌亭ができるまでのエピソードを創作落語「しあわせの寄席提灯」として披露されました。天満天神繁昌亭のこけら落としの記念として、先代の桂春團治さんが天神橋筋商店街をパレードした際に乗った赤い人力車も会場に登場し、大変盛り上がりました。上演後には桂文枝さんと寺本譲北区長のトークコーナーがあり、区長より直接感謝を伝えました。

桂春團治さんと桂小文枝さんがサプライズ登場

桂三語さんは落語「狸賽」を披露

人力車の登場に客席からは大きな歓声が

1月11日に中之島地域活動協議会が設立されました

中之島地域活動協議会は、地域の様々な団体や住民などが相互に連携・協力して活動することを通じて、誰もが輝く元気なまちにしていくことを目的に活動します。

地域団体、地域住民、企業の方々と共に、防災訓練や年末夜回りなどの安心・安全に関する活動をはじめ、正月あそび・盆踊り・お月見・餅つきなどの四季折々のイベント、体操による健康づくりなど、様々な活動を行っていきます。

中之島地域活動協議会役員の皆さん。中之島小中一貫校の全校児童生徒が共同制作しただるまを囲んで

中之島
地域活動協議会
会長　森 克典

設立にあたり、北区役所、中之島連合振興町会、中之島地域社会福祉協議会及び関係する団体・個人の皆様には多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。安心安全で活気あふれる中之島を創成するために皆様のご協力をお願いいたします。

問 地域課　☎06-6313-9951　FAX06-6362-3823

消防協力者に北消防署長から感謝状を贈呈

昨年10月に高層マンションのバルコニー部分から火災が発生しました。激しい煙と炎が立ち上がる中、居住者の「火事だ！助けて！」の声を聞き、すぐさま近隣住人と管理人の方々が協力して、14本の消火器による初期消火活動及び火元の隣室住人による119番通報を実施。皆さんの初期対応によって被害を最小限にとどめることができました。正に毎年実施している消防訓練の成果が、実火災に発揮された現場でした。

注目すべきは、「助けて」の一声で、皆が協力し合える関係性ができている点です。相互扶助の精神による素晴らしい連携行動に敬意を表して、住人の方々、管理人及び管理組合に対し、北消防署長から11月27日に感謝状を贈呈しました。

また、昨年9月、心肺停止状態となった人に対し連携して救命処置を施した方々にも、10月23日と25日に感謝状を贈呈しました。

皆様の勇気ある行動に感謝いたします。

（左から）松下龍二郎北消防署長、中林唯さん、芦川竜童さん、佐藤憲さん、古山智佳さん
（11月27日撮影）

問 北消防署　☎06-6372-0119

詳細は北消防署HP▶

KITAKU

寺本譲区長の動きをお伝えします

区長コラム

「ゆずるの出発進行!!」

夢洲駅、開業！

1月19日に大阪メトロ中央線の夢洲駅が開業しました。初日に見るべく、中央線弁天町駅5時26分発の夢洲行の始発電車に乗り、夢洲駅に降り立ちました。既にホームには人がいっぱい…なんで?どうやって来たの?切符を買うと、もう18番でした…残念です。帰宅後にニュースを見ると、1番切符を買った方は前日から並んでいたとのこと。「そりゃ無理だ…」と画面に向かって唸ってました。

駅から地上に出ると、大阪・関西万博会場の東ゲートは目の前です。万博開幕前に一度、電車に乗って見に行ってみてはいかがでしょうか。

名人芸は健在！

1月21日に参地直笑祭in北区が開催されました。桂文枝さんが披露された創作落語は、一度きりの貴重な高座でした。お酒を飲み干す場面では、実際にお酒を飲んでいるかのように一升瓶と湯呑が見えました。ホントにすごい！

2月1日には、関西テレビ放送株式会社の協力のもと、認知症予防講演会を開催。ゲストの浜村淳さんは「話したり笑ったりが健康の秘訣」と講演されました。50分間ノンストップで語られ、聴衆を引き付けられるのはさすがです。

なんと、桂文枝さんは81歳、浜村淳さんは90歳。落語も話術も名人芸は健在でした。お二人をはじめ、各イベント開催にご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

みんなの卒業ソング

思い出の卒業ソングは?

豊崎東・ピアッザユーザー ぺすきちさん（30代）

私が勤務する小学校の卒業ソングは「旅立ちの日に」です。卒業式では5年生と6年生が向かい合って、掛け合いのパートを合唱します。上級生を送った5年生は翌年6年生になると、5年生に歌を教えます。卒業生が旅立った後もその思いは受け継がれ、学校の伝統として未来に脈々とつながっていく、尊い瞬間に立ち会うたびに、毎年、胸が熱くなります。

中津在住・中学3年生 笠井 碧さん（10代）

中学校での思い出は何といっても部活です。3年間ハンドボール部に所属し、2年生からキャプテンを務めました。人の上に立つタイプではないので葛藤やプレッシャーで押し潰されそうになったこともあるけど、心身ともに成長できたと思います。高校でも僕はハンドボールを続けます。卒業式で歌うのはRADWIMPSの「正解」。絶対泣いてしまうなぁ。

曽根崎在勤・ラジオDJ 藤田きょう子さん（50代）

3月、ウメダFM Be Happy!789に寄せられる卒業ソングのリクエストは、年代によって様々です。尾崎豊さんの「卒業」やH2Oの「想い出がいっぱい」、歌詞が共感を誘う川嶋あいさんの「旅立ちの日に…」などが人気ですね。あいみょんさんの「ハルノヒ」をかけた時は、学生時代の甘酸っぱい恋を思い出すというメッセージをいただきました。

菅北在住・北区健康づくり推進協議会 大西加津子さん（70代）

小・中・高の卒業ソングは「蛍の光」と「仰げば尊し」。中学校を卒業する時、一人ひとりがサイン帳を用意してクラスメートにイラストやメッセージを書いてもらいました。40年前、中学3年生の時の同級生が同じマンションに住んでいたことが分かり、卒業時に書いたサイン帳の話で盛り上がりました。今は彼女と一緒に地域活動を行っています。